

なんでも解説
おのを
深読み



神戸電鉄粟生線の存続のために②

粟生線赤字の原因 乗降客数が減る中、続いた複線化工事

住宅地開発による 沿線地域の人口増加

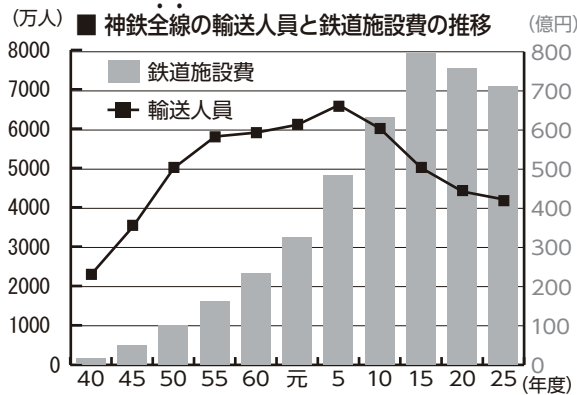
粟生線は、なぜそれほどまでの多額の赤字を抱えることとなったのでしょうか。

昭和40年代ごろから鈴蘭台周辺（神戸市北区）、緑が丘、自由が丘（いずれも三木市）などで住宅地開発が進み、粟生線沿線地域の人口が増加しました。そこで、より多くの人を運ぶため、鉄道の複線化など鉄道施設の整備工事が急務となりました。

車社会の進行

もともと地形的条件の悪い山岳路線であったため、神戸電鉄は、多くの費用をかけ、大規模な土木工事を行いました。その工事の途中だった平成4年度以降、車社会の進行などで、利用者は減少に転じることに。しかし、その時点では、まだ沿線地域の住宅地開発の計画があり、車両内の混雑も解消されていない

■ 神鉄全線の輸送人員と鉄道施設費の推移



かったことから、15年度まで鉄道施設の整備工事は続きました。この事業に要した多大な資金は、現在でも回収が進んでおらず、収支においてもこの投資事業に伴う減価償却費や支払利息などの経費が、経営を大きく圧迫している一因になっています。

▼問い合わせ先 交通政策グループ (☎ 1404)